

目次

はじめに	1
第1章 新しい時代の夜明け	3
1. 現代カンボジアの変貌	3
2. プノンペンの新しい顔	5
3. 内戦の傷痕	6
4. フンセン政権とKR（クメール・ルージュ）裁判	8
5. 大メコン圏地域の開発	9
第2章 現代カンボジア政治の潮流	11
1. カンボジアの新指導者	11
(1) シハヌーク国王の退位とシハモニ新国王の誕生	11
(2) フンセン体制の確立	13
2. カンボジア新憲法	15
(1) 制憲議会選挙	15
(2) 議会民主主義の誕生	16
3. ジェノサイド裁判	17
(1) クメール・ルージュによる大量虐殺	17
(2) 何故虐殺は起きたか	19
(3) 誰が裁かれるのか	21
(4) KR 国際裁判は誰がどこでどのように裁くのか	23
(5) カンボジア政府と国連との合意	25
(6) KR 裁判に関するカンボジア政府と国連との協定（要旨）	26
(7) 裁判費用は誰が負担するのか	29
(8) 誰が裁判に反対しているのか	32
第3章 最近のカンボジア経済情勢	33
1. 概観	33
2. 経済成長の現状と見通し	39

(1) 農業	39
(2) 工業及び建設	41
(3) サービス業（観光業）	43
(4) 貿易・投資	44
(5) 物価・通貨	48
(6) 財政政策・対外債務	51
(7) 国民所得（貧困と社会開発）	54
3. 構造改革	56
(1) 金融・銀行部門	57
(2) 財政・公共部門	60
(3) 土地・天然資源の管理	67
(4) 法律・司法改革（ガバナンス改善）	70
(5) 改革の遅れ	72
第4章 カンボジアの国家再建計画	75
1. 経済発展のアキレス腱	75
2. レクタンギュラー（四辺形）戦略	75
(1) 「四辺形戦略」の中核―良き統治（グッド・ガバナンス）及び4分野 （汚職追放、司法・法律上の改革、行政府の改革、国軍の改革）	76
(2) 「四辺形戦略」中核部分の実施に必要な環境（平和、政治的安定及び社 会秩序、開発パートナー、マクロ経済及び金融のための環境、地域及 び世界への統合）	77
(3) 成長促進のための四辺の戦略（農業セクターの強化、物理的なインフラ の復興と建設、民間セクターの開発及び雇用促進、キャパシティ・ビ ルディング及び人的資源の開発）	79
(4) 結論と分析	85
(5) 国連開発計画（UNDP）の視点	85
第5章 日本の役割（和平外交、国家復興・再建支援）	89
1. カンボジア和平への貢献	89
(1) 和平交渉（戦後初めての東南アジア和平外交）	89

(2) UNTAC 平和維持活動への参加	91
2. 日本の対カンボジア復興再建・開発援助	94
(1) 援助メカニズム	94
(2) 日本の対カンボジア政府開発援助 (ODA)	95
(3) 日本の ODA 援助実績	97
(4) 「人間の安全保障基金」	99
3. 日本との経済・貿易関係	100
(1) 経済関係	100
(2) 貿易関係	101
第6章 大メコン圏地域開発とカンボジア	103
1. 大メコン圏地域 (The Greater Mekong Sub-region = GMS)	103
2. 大メコン圏地域 (GMS) 開発プログラム	104
3. 日本の GMS プログラム支援	108
(1) 日本のメコン河流域開発政策	108
(2) 日本のアジア開発銀行 (ADB) を通じる援助	108
資料編	111
資料1. カンボジア王国概要	111
資料2. カンボジア歴史年表	112
資料3. カンボジア経済指標	118
主要経済指標	118
財政統計	119
国際収支	120
GDP (産業別現行価格)	120
セクター別雇用	121
資料4. 経済・貿易指標	122
資料5. 人間開発指数 (UNDP)	123
資料6. カンボジア王国憲法 (英文資料より仮約)	124
資料7. 「クメール・ルージュ裁判」に関する国連とカンボジア政府との 合意文書 (要旨仮約)	151

資料 8. カンボジア地図 161